

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(2) 平成12年6月1日

明治初期の啓蒙書(その2)

西洋事情 (K080/35,302.3/7カ)

福沢諭吉は25歳から32歳の8年間に、アメリカを二度(1860、1867年)、ヨーロッパ諸国を一度(1862年)訪問しています。『西洋事情』は福沢が自ら見聞した欧米先進諸国の実情を描いた紹介の書です。

本書は幕末から明治維新直後の1866(慶応2)年から1870(明治3)年にかけて刊行されました。初編・外編・第二編から成り、全部で10巻あります。

その内容はだまかに言うと二つの部分から成っています。

ひとつは欧米先進諸国の政治制度から外交政策、財政、軍備、教育制度の実情にはじまり、まだ、当時の一般の人々は見たこともない蒸気機関、汽車、電信、ガス灯から新聞などの文明の利器についての説明です。もうひとつは、すでに欧米諸国に社会通念として存在した<自由>や<権利>(福沢は「right」という英語を「通義」と訳している。)という考え方の説明です。

日本は開国したばかりで、ほとんどの人が西洋の事情を知らなかったのですから、『西洋事情』が一般の国民に与えた影響はたいへんなものでした。福沢自身、「初編は偽版を含めて20万から25万部が出版された」と言っています。十五代将軍徳川慶喜や西郷隆盛もこの本を愛読したということです。また、1868(明治元)年に明治政府が示した「五箇条の御誓文」中の「ひろくかいぎ会議ヲ興シおこ万機ばんき公論こうろんニ決スベシ」「ちしき智識ヲ世界ニ求メもと大ニ皇基おうきヲ振起スベシ」という文章は、政府当局者が『西洋事情』をすでに読んでいて思いついたものだとされています。さらには明治政府の政策そのものにも大きな影響を与えました。

当館では本書を2部所蔵しています。いずれも全10巻の完全なものです。

【参考資料】 『福沢諭吉全集』第1巻(081.6/フ1) 『明治草創=啓蒙と反乱』(311.2/150)
『日本の名著(33)福澤諭吉』(081/100)